

『学び合い』で子どもが変わる 教師が変わる

新発田市立五十公野小学校

皆川 孝

概要

- はじめに

学校経営方針の中で

「学校は、**地域の未来を拓く子ども**を育てるところ」

- 研究主任の振り返り
- 「生きる力」を育てる学習過程 ～学力保障と社会性育成～
 これまで(4年間)の変遷
- 子どもの変化 知育と徳育が一体となって
- 教師の変化
- 『学び合い』を始めたい人へ五十公野小学校からのメッセージ

『学び合い』研究を進めてきて

平成 22 年度、五十公野小学校では、『学び合い』の考え方に会った。その当時『学び合い』とは、「児童が、かかわり合っている姿を取り入れた授業」というイメージが強かった。かかわり合いを重視した授業ならば、どこの学校でもやっている。また、今までも行ってきた。しかし、『学び合い』は、違った。かかわり合いが目的ではない。簡単に言えば、「みんなで課題を解決すること」が目的であった。これも言葉にすれば、今までの授業とさほど変わりはない。しかし、『学び合い』を進めるにつれて、「みんなで」解決することの如何に難しいことか。解決できる「課題」を提示することの如何に難しいことが分かってきた。つまり、今までの授業で何気なく行われてきたことは、子どもたちの解決や達成を見ないまま進められていたことに気づいたのである。では、「みんなで」解決するとは、どういうことか？これは、一人でもできない子がいてはいけないことを意味する。つまり、誰でもできなければならないのである。言い換えれば、誰でもできるようにするために「みんなで」解決するのである。「みんなで」解決することが求められると、教室では、どのような変化が起こるだろうか。それは、今までの一斉授業の中で参加できなかった子ども、あるいは、参加したつもりになっていた子どもは、否応なしに授業に参加せざるを得なくなるということである。これは、大きな授業転換である。一斉授業で教師は、「おしえたつもり」になってはいなかったか？「できた子どもは当然」で、「できない子どもは子どもの努力がたりない」と思う場面はなかったか？『学び合い』は、違う。「できない子どもはいない」のである。したがって、「できた子どもは当然」だけなのである。

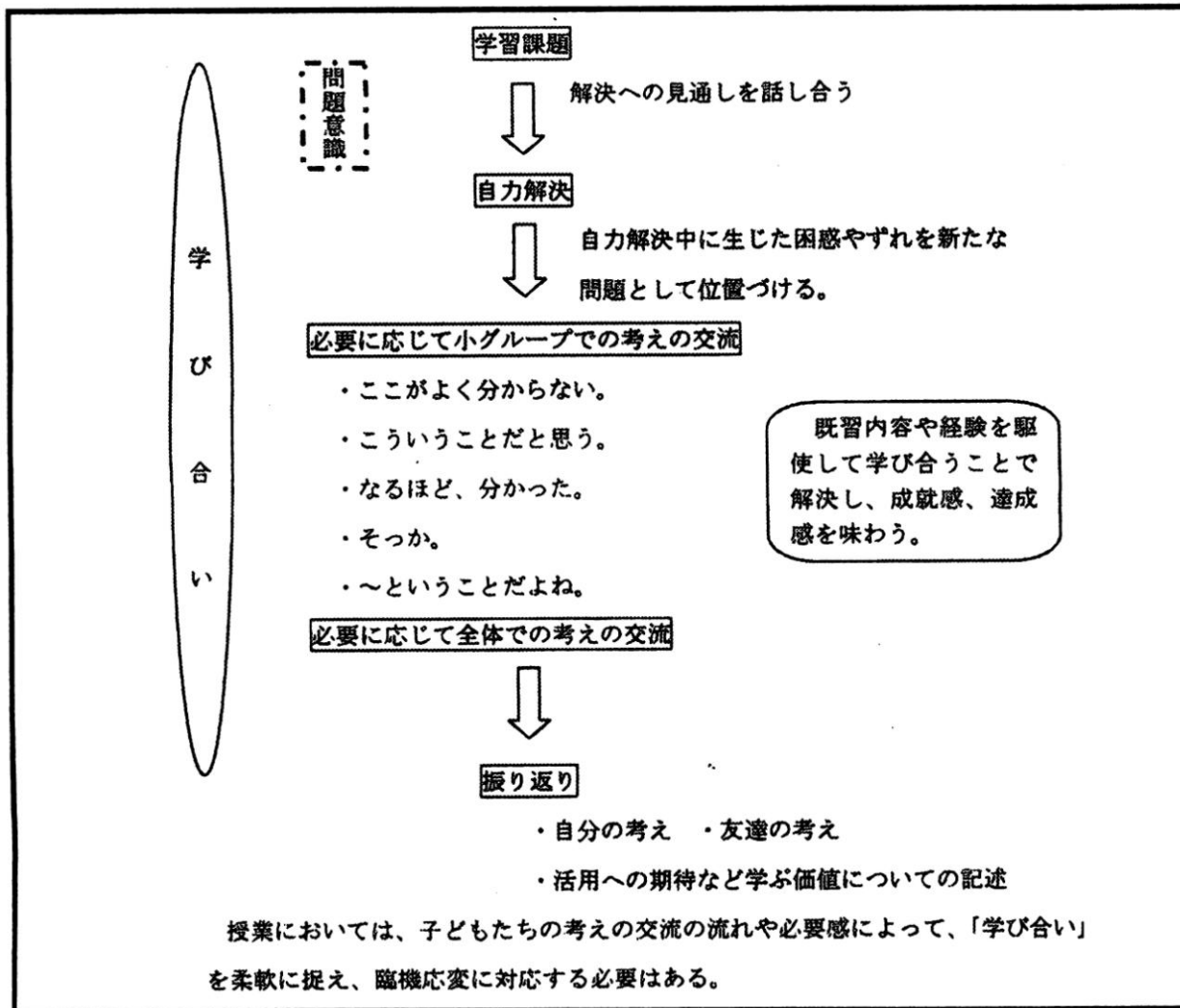
さて、『学び合い』を具体的に見てみよう。「みんなで解決」するために、授業の初期に「めあて」を提示する。めあては、「できたかできなかったかが、はっきりわかるめあて」にする必要がある。なぜならば、授業の最後には「振り返り」を行い、その「振り返り」の際に、「達成状況を振り返る」からである。「登場人物の心情を読み取ろう」などというめあては、『学び合い』には存在しない。「登場人物の気持ちの大きな変化がわかる言葉を文中から見つけることができる。」というめあてになる。この方が、その学習でできたかできなかったかが分かるからである。昨年度 1 年間の研究授業を通して、ようやくこの違いに気づくことができた。そうかといって、どの学年もレベル的に均一なめあてになることはない。学年の発達段階に応じためあてにする必要がある。昨年度の研究でそのレベルについても徐々に明らかになってきた。

当校では、めあてを提示し、そのめあてを達成するために 2 つの学習過程を設定している。それは、習得の課題と活用の課題である。つまり、1 単位時間の授業で習得と活用を同時に行うのである。従来は、習得のみの授業、または、活用のみの授業が多かった。当校では、それを同時に行うことで、子どもたちの能力の向上を図っている。習得の課題とは、活用するために必要な知識・技能を獲得する課題である。いわゆる問題を解くために必要とされるアイテムのことである。このアイテムを使って、活用の課題を解くのである。こうすることで、1 単位時間に習得と活用の両方の活動が必然的に行われることになる。子どもたちの中にもこのパターンが定着している。子どもたちのノートには、「めあて」と「課題」と「振り返り」が文章として書かれている。これらの活動を 1 年間続けてきた結果。ノートに文字を書く量は格段に増えてきた。また、主に振り返りに書かれている内容としては、「友だちに教えてもらってよかった。」というレベルの状態から、「分かったことは、○○ということです。」というレベルまで高まってきている。今年度は、さらに「自分の考えに付け加わったこと」「次回にやってみたいこと」も書くよう指導している。これらの振り返りを継続的に行うことで学習内容を自分の言葉で説明できるレベルまで理解できている。

『学び合い』は、こうした学習内容の定着という効果だけではない。社会性の育成という観点からも有効な考え方である。みんなで解決する際、「教えてあげる」「教えてもらう」という関係でかかわるのではない。分かった子は、「一緒に考えよう」と声をかける。また、分からない子は、「分からないから教えてください。」とかかわっていく。相手を思いやりながら声をかけていくことや、友だちに素直に助けてもらおう気持ちも育ってきている。友だちを大切にすることは、周りの命を大切にすることを気持につながっている。『学び合い』による「みんなで解決すること」は、学力の向上だけでなく、豊かな心まで育てていたのである。

『学び合い』の学習過程の変遷

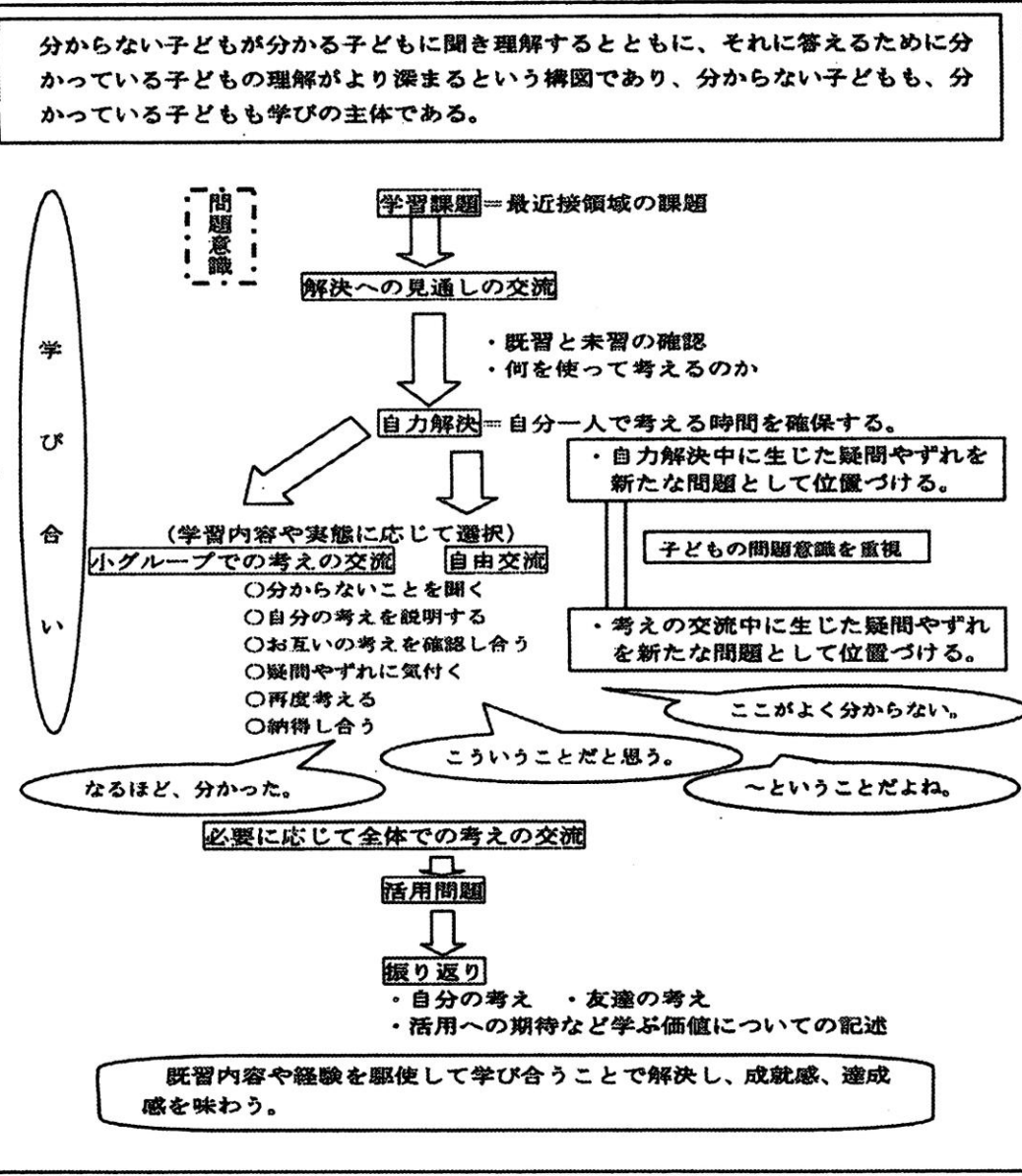
1 平成20年4月 『学び合い』との出会い



平成20年4月
学習課題を提示した
の時間を確保した
交流では、必要に
ループや全体で
最後に振り返りを

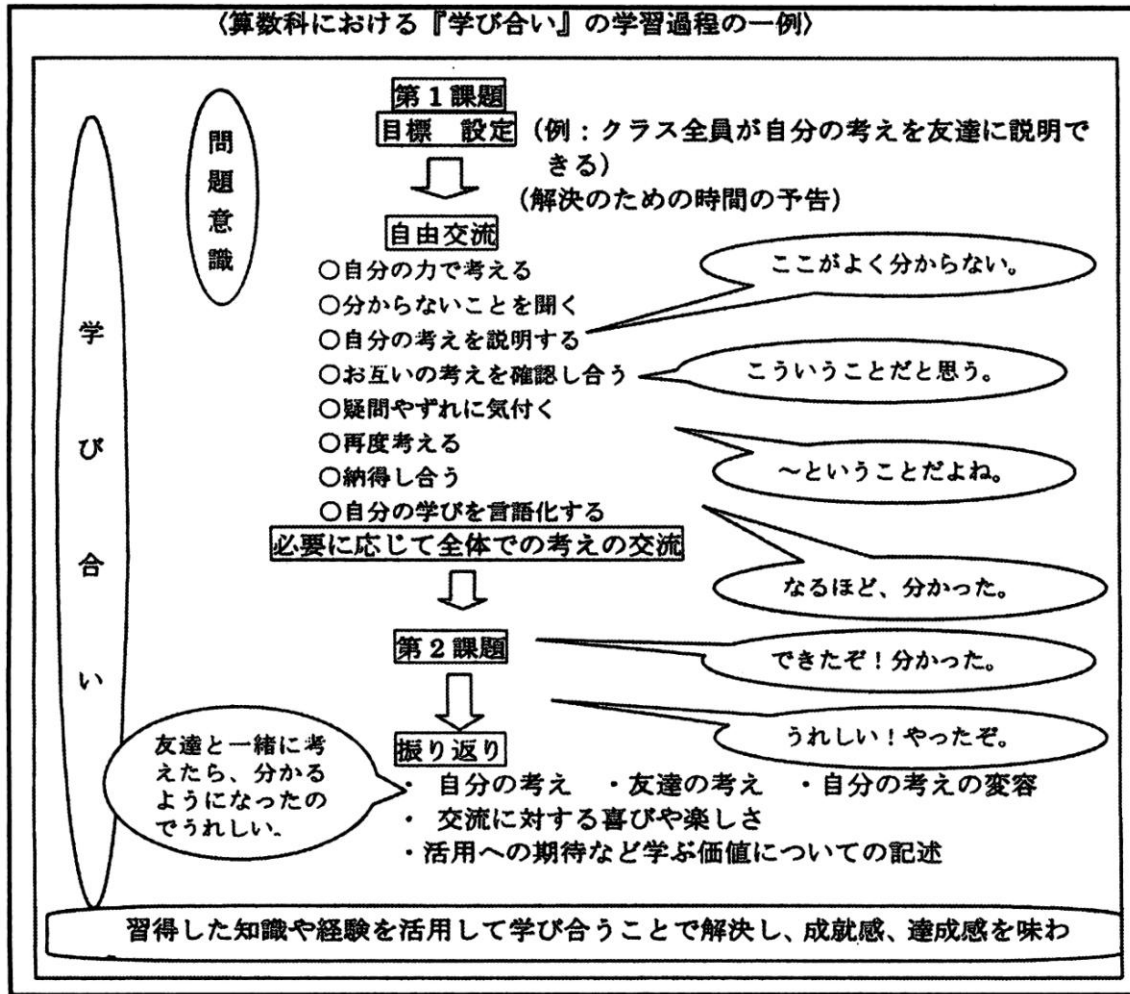
2 平成20年9月 『学び合い』の実践スタート

「学び合い」の松小のとらえ（原案）9月



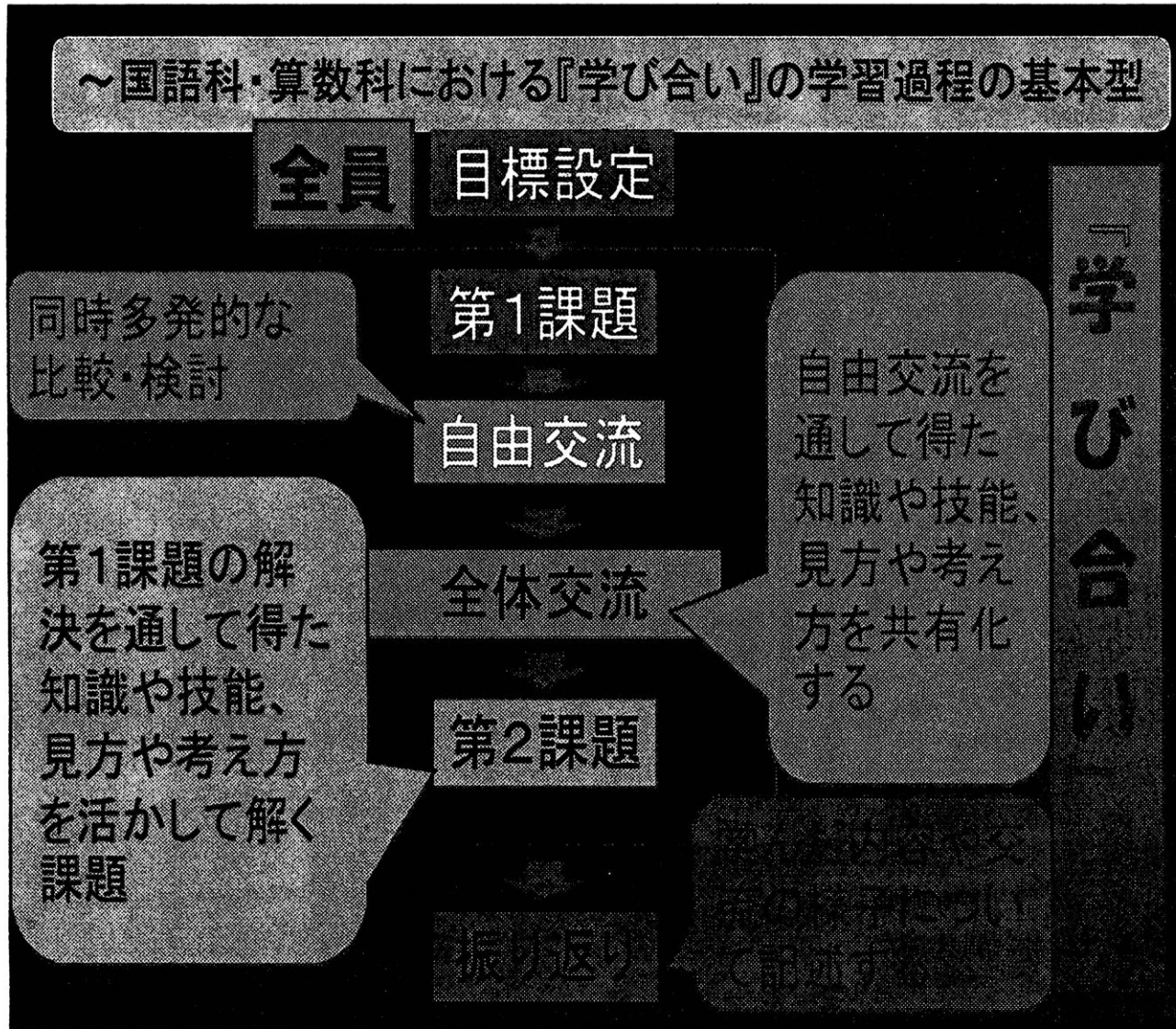
実践を重ねる中、難易度の難しさ、通しをもてない子、③交流の形態、一単位時間に課題のか、など多くのた。そこで、①に子どもたちにとっての課題という領域の課題を設定目指した。②に解決の前に解決もたせる交流をについては、学習に応じて小グループかを選択するよについては、活用問題置づけた。

2 平成21年3月〈これまでの成果を共有化する〉



21年3月には、学習過程が複雑なりすぎたという反省から、左図のような学習過程になった。第1課題と目標を同一に設定し、自力解決を自由交流に含ませることにした。つまり、解決の手段を子どもに選択させるようにした。また、第2課題を設定し、第1課題とのつながりを模索した。

2 平成21年11月〈村松小スタイル誕生期〉

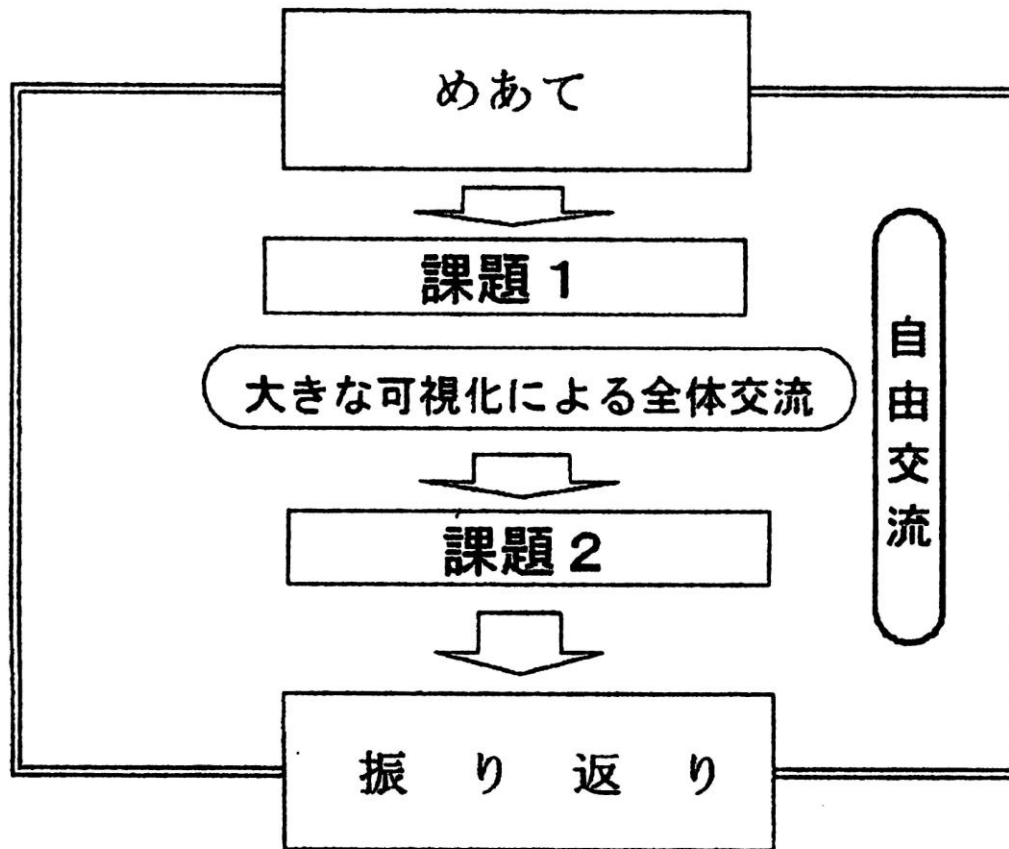


多くの変遷は左図のよ

た。
まず、目標の後第1課題交流、第2課題振り返りを行味は左図に

五十公野小学校の『 ～校内研究の歩みを

1 単位時間の学習過程



「Weに
10年) によ
い』による
設定—第一
—振り返り
には、授業
対する喜び
当校では、
けでなく他
課題」を「
と位置づけ
たちに「(」
た。

『学び合い』を始めたころ

平成22年7月の協議会から

T1 教師が子どもの考えをまとめてあげることがないのが不安

T2 解けていない子にとっては、交流がじゃまになるのではないですか。

T3 別の考え方を持ってこられても、自分と違う内容を理解できる子は、少ないのではないか。

T4 せっかく助けに来て、その子まかせのところもあった。

T5 考えの持てない子にとっては、じっくり分かったかどうか疑問です。決められた時間でできるのかが疑問。

『学び合い』を始めたころ

平成22年4月～7月ころ

教師の
出場が
曖昧

子ども同士の
交流にきまり
(秩序)がない

子どもが理
解できている
か不明

時間設定は、
自力解決には、
必要ない。

『学び合い』を始めたころ

平成22年4月～7月ころ

【教師のもつ教師観】

- ・教師は、教える存在
- ・教師は、授業のコーディネーター
- ・教師は、子どもの発表の整理係

教師絶対論

『学び合い』を始めたころ

平成22年4月～7月ころ

【教師のもつ子ども観】

- ・子ども同士の交流にはマニュアルが必要
- ・子ども同士で理解しあえるのは、レベルの高い子だけ

子どもの力を信用できない

『学び合い』を始めたころ

平成22年4月～7月ころ

【教師のもつ学習観】

- ・ 自分一人で自力解決できる力が、子どもにつける力である。

(たとえ時間がかかったとしても・・・)

自分一人で生きていくのだ

職員の意識を変えるために

- 研究主任として 職員の考え方への賞賛と指導

「研究推進たより」の発行

研究推進たより 平成22年6月30日(水) NO. 3

3年生研究授業 (7月1日(木)5校時:3年教室)

本間先生が、お忙しい中、授業をしてくださいました。授業の流れと見どころ(視点)は、以下の通りです。たくさんの皆様からご覧いただき、ご意見をたくさんいただけたら幸いです。

この授業の流れ

```

graph TD
    A([モンスター問題がとけるようになろう]) --> B[2ケタ-2ケタの計算のやり方を考える]
    B --> C[アイテムを使ってモンスター問題を解く]
    C --> D[10の位が引けない3ケタ-3ケタの計算ができる]
    D --- GOAL[GOAL]
            
```

授業の見どころ

- ① 「モンスター問題」をみんなで解くことが子どもたちにとっての授業のめあてになっているか
- ② 自分にとって必要なアイテムを見つけて解こうとしているか
- ③ 横の学び合いによって、子どもがよりよい考えに至っているか

低学年部の授業ですが、「学び合い」についての貴重な提案授業です。お時間がありましたら、10分でも15分でもよろしいですので、高学年部の方々も是非ご覧ください。

研究推進たより 平成22年7月1日(木) NO. 4

3年生研究授業の協議会より

繰り下がりのある3ケタの筆算のやり方を学び合いによってできるようにすることについて

子どもたちが考えるようになった	友だちとかかわろうとする子が増えた	全員ができるようになった
分からないことを解決するやり方を身に付けようという気持ちが表れてきた	言葉にできない子が説明できるようになってきた	教える子の力がさらに高まった

課題として見えてきたこと

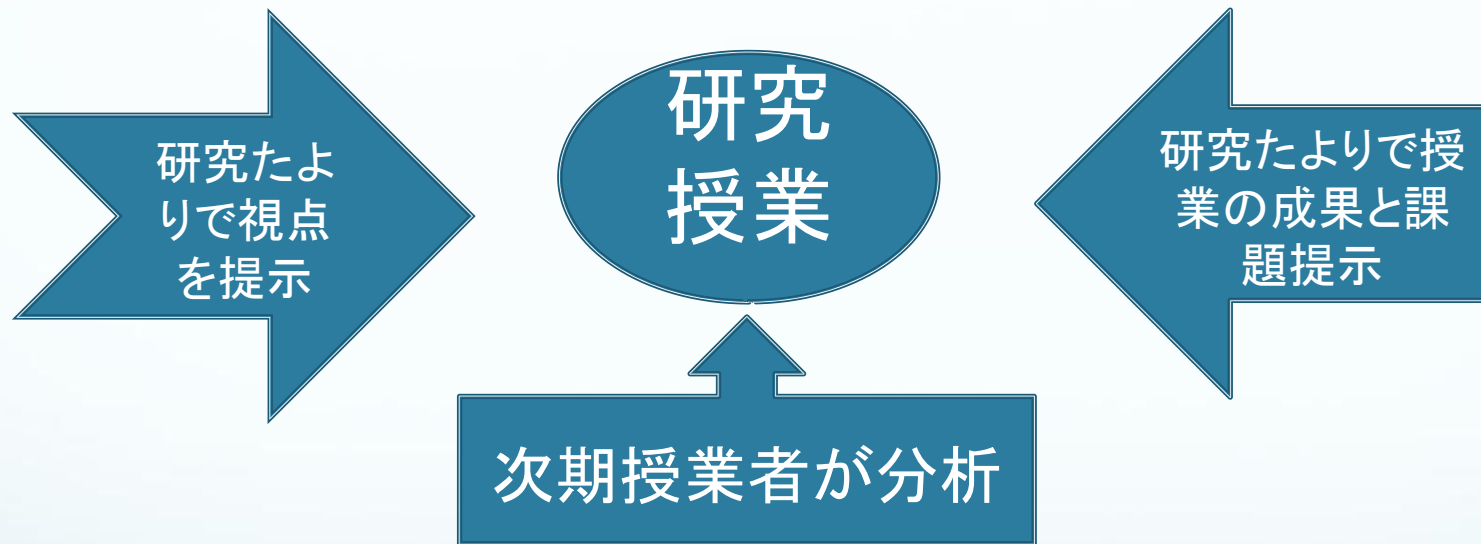
- ① 授業のめあて→アイテム取得問題→モンスター問題(主課題)の提示の仕方。
- ② 習得させることと活用させることを教師が持つて授業をする。
- ③ 子どもたちによりよい考え方という価値をどのよにつけるか。
- ④ 教師が教えて、子どもたちにとらえさせる内容や場面も必要であり、それをどの場面でもつてくるか。
- ⑤ できない子への教え方を子どもたちにどのように身に付けさせるか。

これから使える方策

できた子にはふり返りをさせる	「もっとよい考えを探しましょう」といって交流させる	説明の場合は、算数として大切な言葉を落とさないで説明させる
児童の実態に応じて既習事項より少し高いレベルの課題からのスタートもありうる	教えてもらいたくない場合は、ノーサンキューカード	習得場面と活用場面を明確にする

活発な協議がなされました。何より、理解に時間がかかる子どもでも必死になって考えるようになっていく姿が、全体のレベルを上げていくという点で「学び合い」の大きな価値があります。貴重な提案をしていただいた本間先生、ありがとうございました。

職員の意識を変える 研究主任としてがんばったこと



このパターンの繰り返し

H22年度 研究授業計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年					30(月) 貝瀬事前検討会 ⑦	9(木) 下学年部研究会 貝瀬:国語 授業分析:大久保	26(火) 酒井事前検討会	10(木) 下学年部研究会 酒井:国語 授業分析:富樫 ④				
2年			2(水) 事前検討会 16(水) 研究会 1全(主) 体育 中(主) 体育 授業分析:本間 ⑥			27(月) 大久保事前検討会	8(金) 下学年部研究会 大久保:国語 授業分析:酒井 ③					
3年			21(月) 本間事前検討会	1(木) 下学年部研究会 本間:算数 授業分析:貝瀬 ①								
4年	30(金) 研究会 全(主) 体育 先(主) 体育	25(火) 鈴木事前検討会	1(火) 研究会 鈴木:国語 授業分析:山田 ⑧									
5年					30(月) 鹿島事前検討会	17(金) 上学年部研究会 鹿嶋:国語 授業分析:庭山 ⑩		15(月) 事前検討会 29(月) 研究会 三浦:体育 授業分析:鈴木 ⑤				
6年						27(月) 事前検討会	13日(水) 上学年部研究会 庭山:音楽 授業分析:本保 26(火) 本保事前検討会 ⑨	2(火) 上学年部研究会 本保:体育 授業分析:三浦				
つくし				5(月) 研究会 12(月) 研究会 1全(主) 生活 梅:生活 授業分析:鹿島 ⑫								
級外					30(月) 山田事前検討会			1(月) 上学年部研究会 山田:算数 (5年) 授業分析:梅田・小坂 ②	3(金) 下学年部研究会 富樫:算数 (2年2組) 授業分析:中島 ⑬			

職員の意識は変わっていった

平成22年9月ころ

「とりあえずやってみなければはじまらない」授業

K教諭の発言！

「なんだかんだ言たって始まらないから、とにかくやってみようと思ってさ・・・」

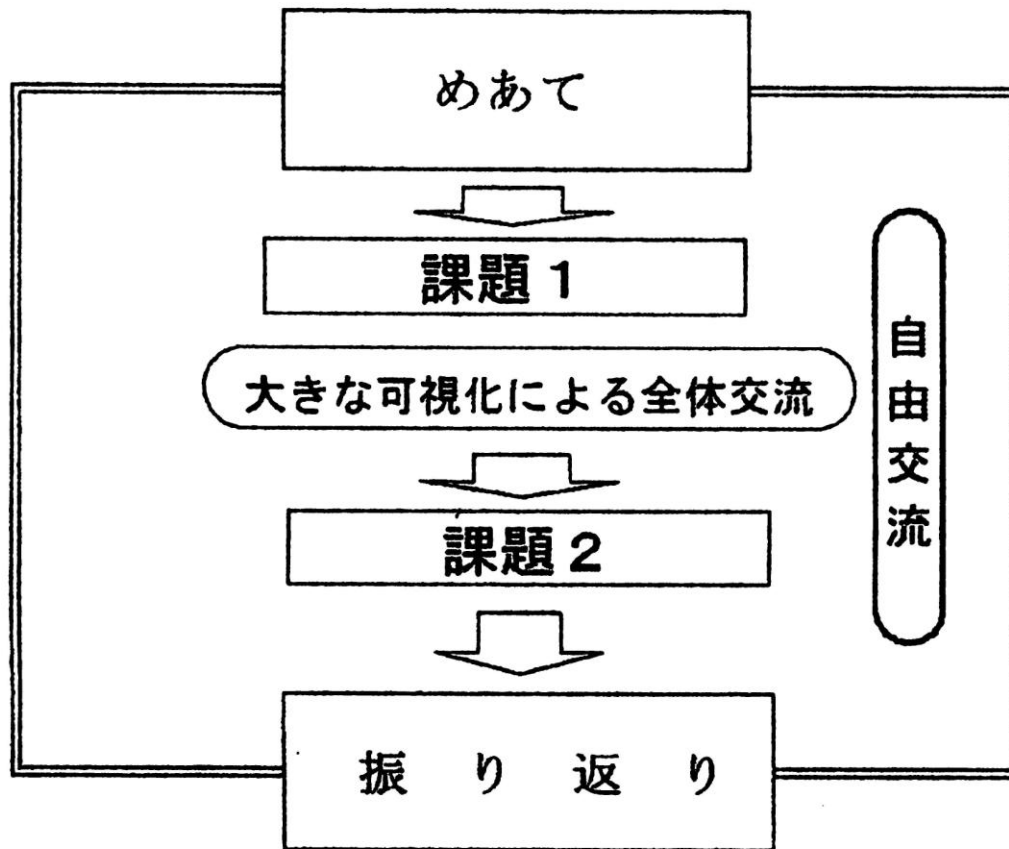


「課題をはっきりさせて時間を決めると子どもたちはか
かわるんだねえ・・・びっくりした。」

土俵を狭くした課題と時間制限の良さの発見！

五十公野小学校の『 ～校内研究の歩みを

1 単位時間の学習過程



「Weに
10年) によ
い』による
設定—第一
—振り返り
には、授業
対する喜び
当校では、
けでなく他
課題」を「
と位置づけ
たちに「(

職員の意識は変わっていった
ここで授業の様子を見てみましょう。



子どもが変わった瞬間



突然、子どもたちが互いの健闘を称えて握手をしたのでした。

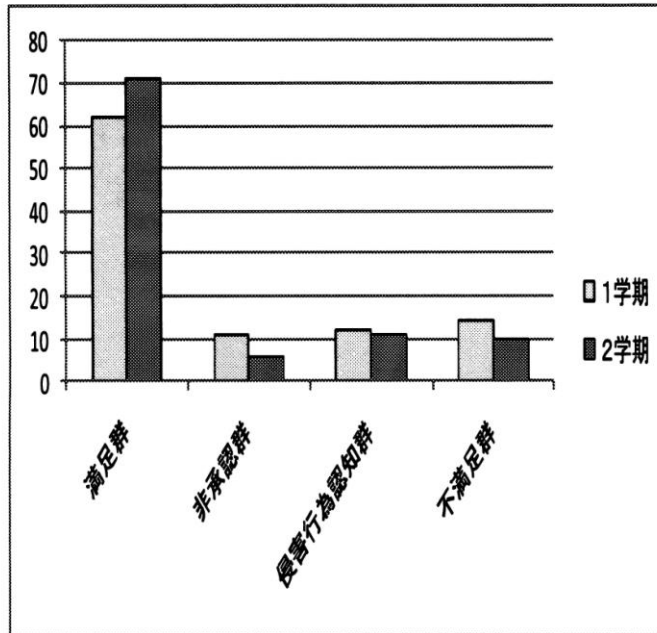


今年も閉会式終了後、応援団が自主的に行った“ノーサイド”の瞬間

3 Q-U 調査の結果

(1) 居心地のよいクラスアンケート

(%)	満足群	非承認群	侵害行為認知群	不満足群
1学期	62	11	12	14
2学期	71	6	11	10

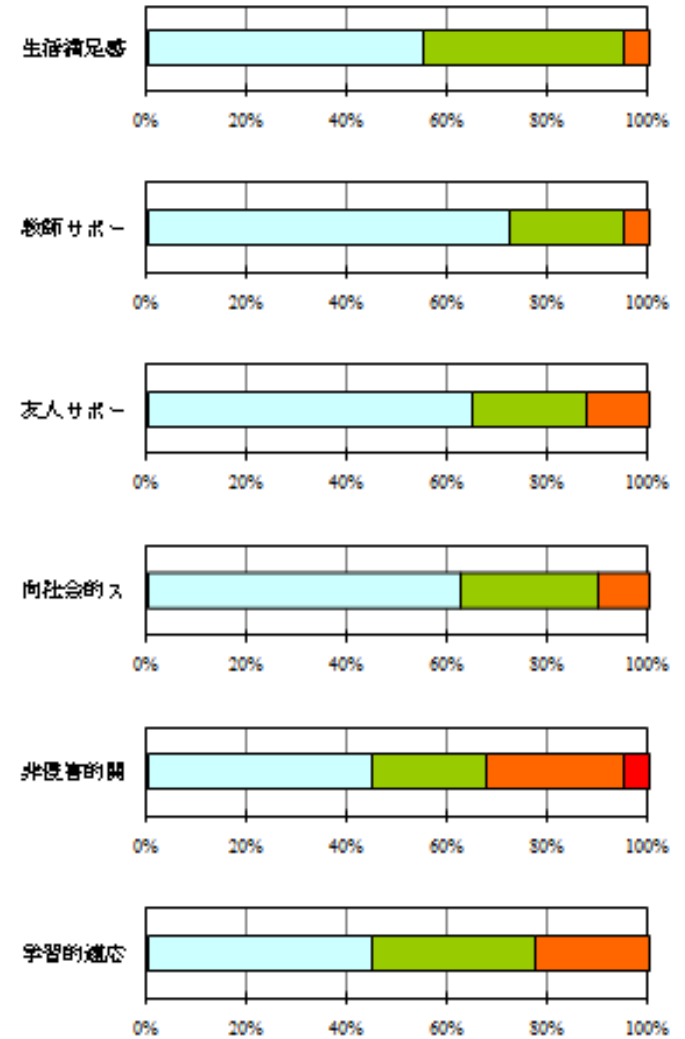
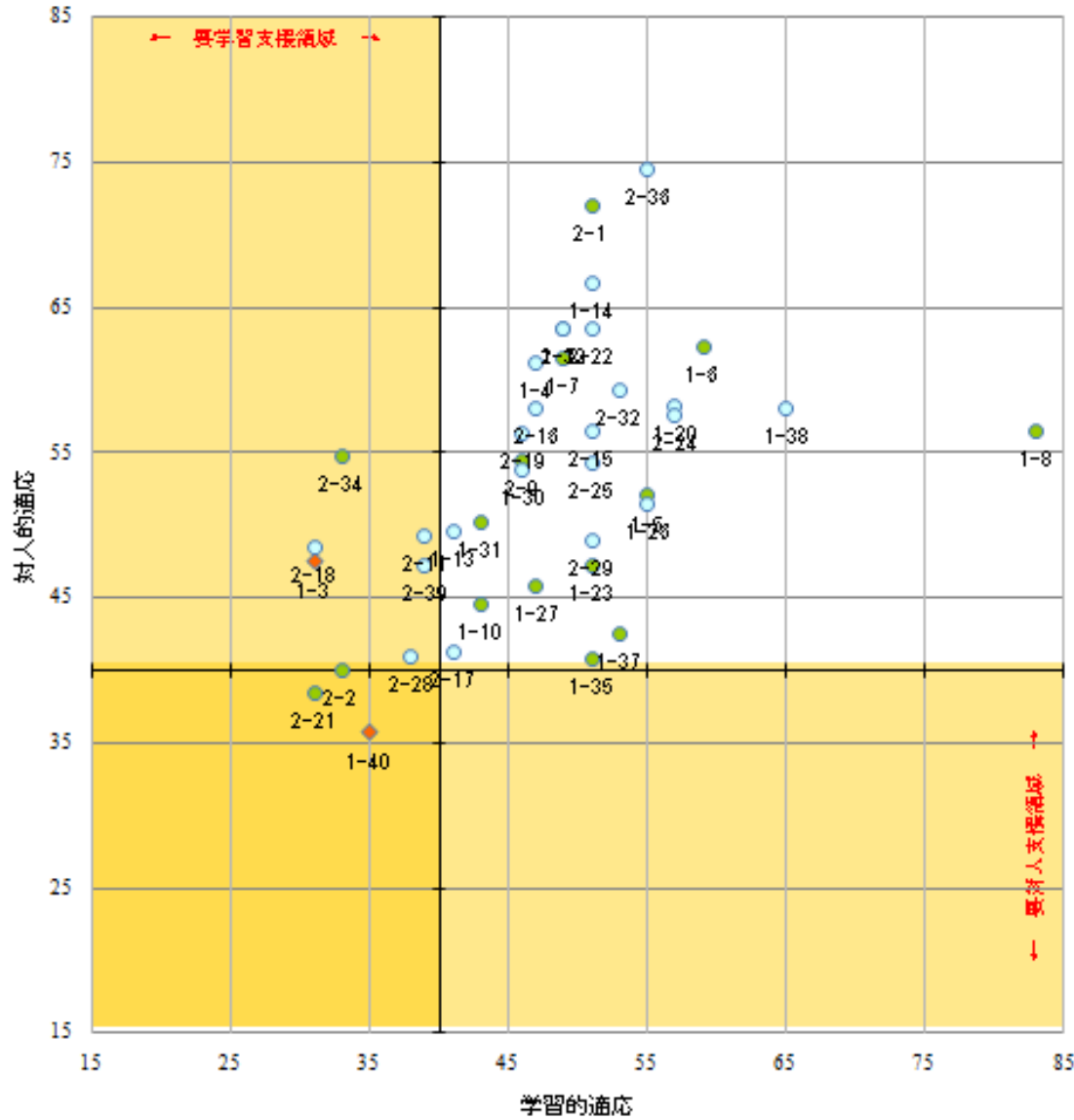


〈侵害行為認知群〉 1学期 12% ↓ 2学期 11%	〈満足群〉 1学期 62% ↓ 2学期 71%
〈不満足群〉 1学期 14% ↓ 2学期 10%	〈非承認群〉 1学期 11% ↓ 2学期 6%
要支援群 1学期 2.9% ↓ 2学期 2.6%	

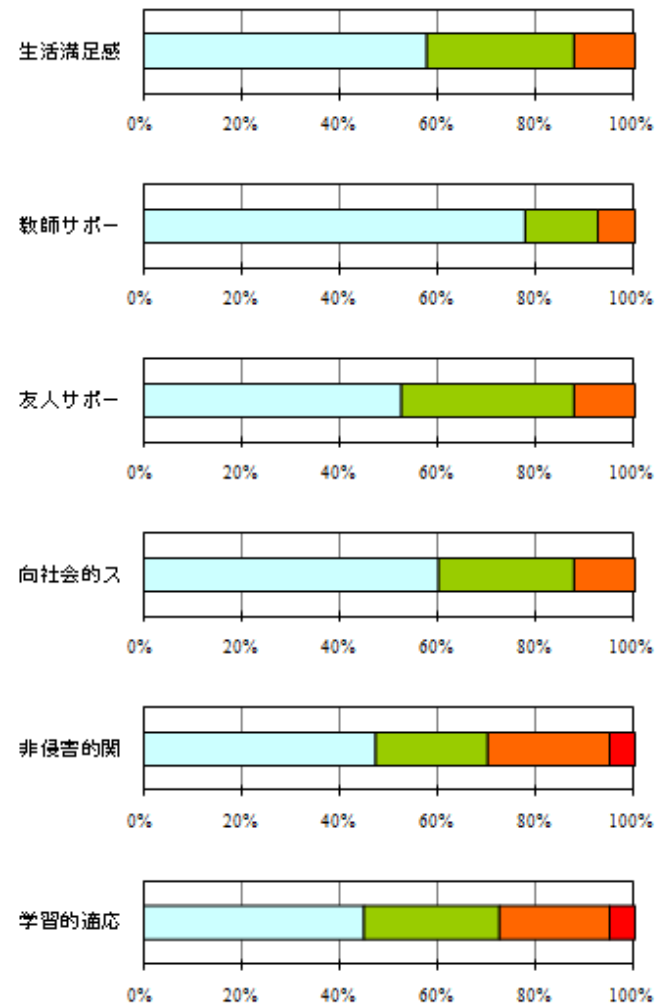
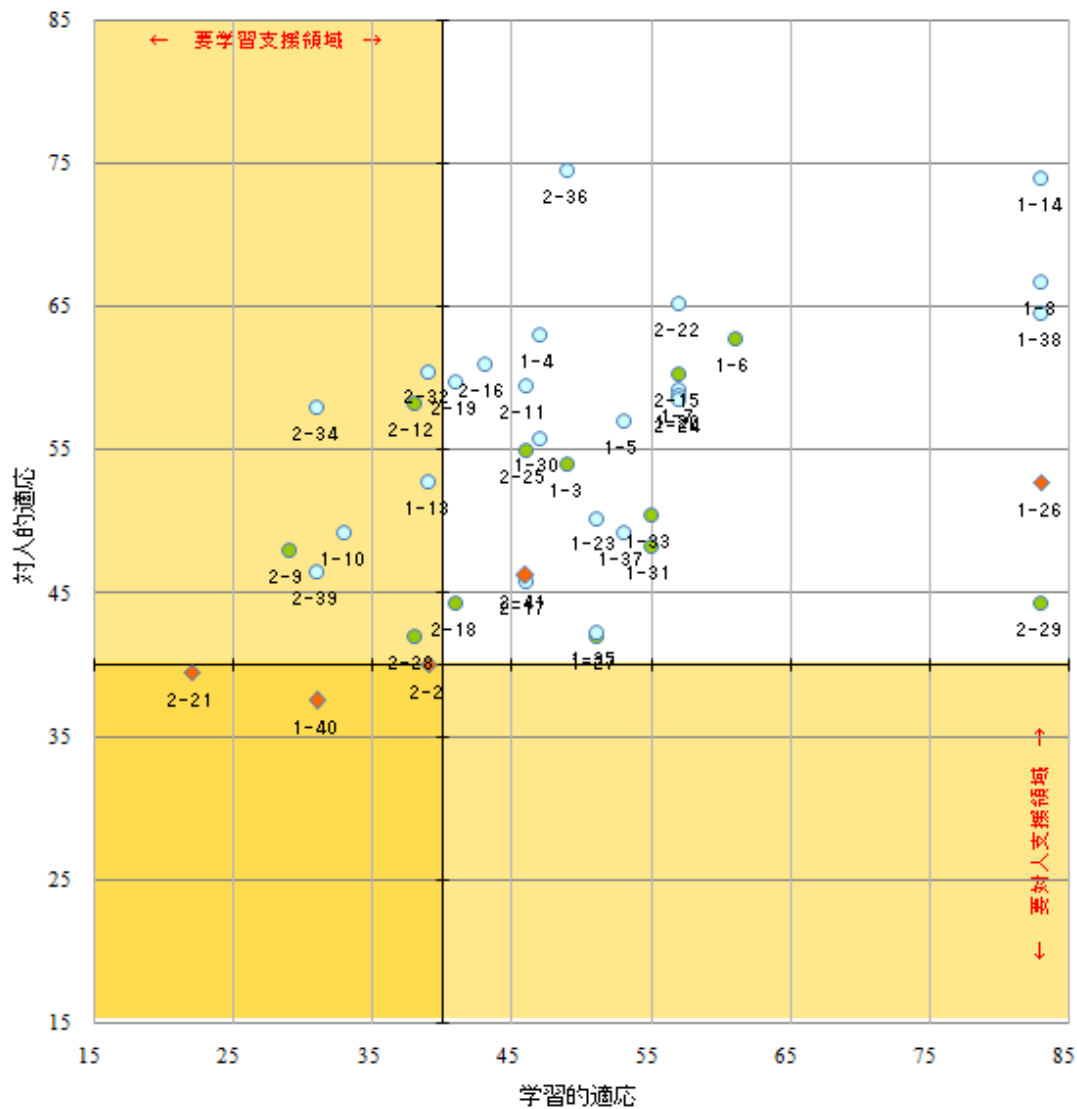
満足群が62%から71%に向上している。また、不満足群も14%から10%に減少した。

ASSESSを活用し始めました

2011 5学年 4月



2011 5学年 7月



席替え時のふわふわメッセージ



- 相手の連絡帳に書くことにより、保護者にも直接読んでもらうことができる。
- 書いてもらった後に、振り返りの5行日記を書くことができる。

職員の意識はこう変わっていった

平成22年4月～平成23年7月までに

- 職員へのインタビューから

S 教諭

「去年より多くこのパターンで行っています。」

「自分から手を挙げられなくても、友だちと交流できるのがいいと思います。」

「多動の子も自由交流だとかかわりがもてるみたいです。」

職員の意識はこう変わっていった

平成22年4月～平成23年7月まで

- 職員へのインタビューから

H教諭

「6年生担任の時は、子どもたちが自分と違う考えに出会うことが刺激的だと感じた。」

「2年担任の今年、振り返りを書くことを繰り返していると、書く量が増えてきた。4月からノートは2, 3冊になっている。」

職員の意識はこう変わっていった

平成22年4月～平成23年7月までに

- 職員へのインタビューから

K 教諭

「『学び合い』は、徳育面で有効です。」

「学力がしっかり身につけているかどうかは、
疑問です。」

職員の意識はこう変わっていった

平成22年12月ころ

水落先生の講話ですっきり・・・

『学び合い』・・・

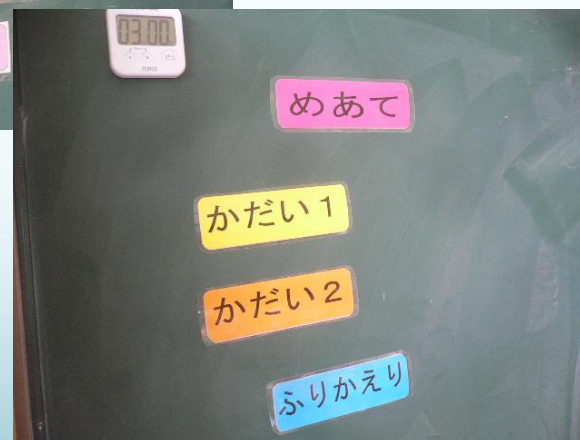
「目標と活動と評価の一体化」

「かかわりあっていればよい」から

「学習」の考え方への転換

今年の五十公野小学校

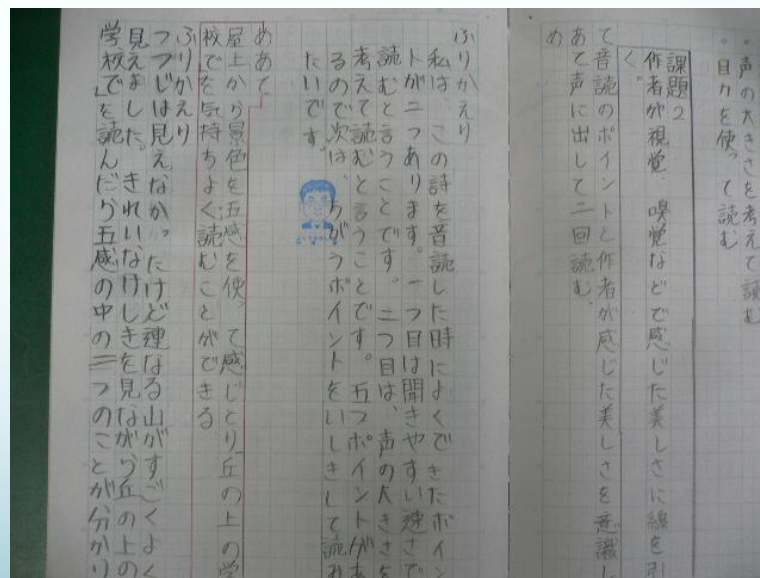
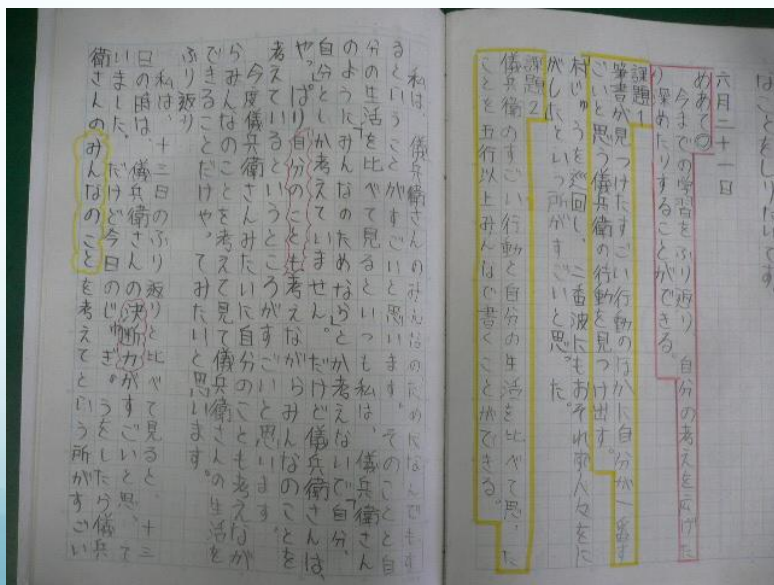
- 教室にプレート



今年の五十公野小学校

子どもの変化として…

振り返りのノートから



まとめ

- ① 五十公野小学校校内研究 課題 可視化
- ② 『学び合い』を始めたころ（平成22年 4月～7月）
- ③ 職員の意識を変えるために
- ④ 職員の意識はこう変わっていった
（平成22年4月～平成23年7月）
- ⑤ 今年の五十公野小学校（平成23年4月～）
- ⑥ まとめ

- 『学び合い』で子どもが変わる
- 『学び合い』の授業は、教師の学習環境作り（めあての設定、効果的な可視化）で決まる
- Weになって考えることで、主体性UP

ふわふわ言葉を贈る

～言葉集め～



繰り返し、何度でも
活動を選んで、言葉のシャワーが
心の糧に

- 自分は自然体験教室で全く役に立っていないと思ったけれど、みんなから見て、僕は「役に立っている」と思うことができました。これからは自分に自信をもつようにします。
- 自分では結果を残せなかったと思ったけれど、みんなが「まとめてくれてありがとう」「感謝しています」と書いてくれました。「自分って役に立っていたんだなあ」と思うと同時に勇気付けられました。
- みんなが僕を見てくれたんだと思いました。みんなが見てくれると思うと何だかやる気が出てきました。これからも人の役に立つことや自分も相手も気持ちよくなることをしていきたいです。
- 手紙をもらってとてもいい気持ちでところがふわふわし
- 僕には何の力もないと思っていたけど、みんなが僕で
- つけてくれて、うれしくてみんなに「ありがとう」と言
- これからはもっと信頼される人になりたいです。その
- ら「大丈夫？」と声をかけたいです。



構成的グループ・エンカウンター

～人間関係調整能力を重視した～



- ねらいを明確にもつ。
- 振り返りを大切にする。
- シェアリングしたことを保護者にも広げる。
- シェアリングシートは保存する。

学び合い

～基本に戻ってみる～

- 「振り返り」における友だちへの感謝や友だちからの支援への感謝を表出すること。それをたよりで紹介すること。
- 声かけによる賞賛, 承認
- ノートへのコメント
- 「みんなで」

『学び合い』を始めたい人へ

- 五十公野小学校からの
Message ビデオメッセージをお聞きます。

鹿島先生



本間先生



『学び合い』を始めたい人たちへ

新発田市立五十公野小学校研究発表会

共催 上越教育大学教職大学院
後援 新発田市教育委員会

研究主題

みんなで「できる」「わかる」授業の創造
～「振り返り」と「可視化」を重視した
『学び合い』の授業を通して～

日時 平成23年12月2日(金)

会場 新発田市立五十公野小学校 〒957-0021
新潟県新発田市五十公野4862
TEL 0254-22-3641

内容 公開授業 1年 算数(教諭 久保 里香)
(授業者) 4年 理科(教諭 本間 まゆみ)
6年 国語(教諭 貝瀬 健太郎)
全校級 『学び合い』の授業公開

全体発表
授業協議会

講演 上越教育大学 教授 西川 純 様
上越教育大学 准教授 水落 芳明 様

日程(予定)

12:00	10:45-11:00	12:00	13:00	12:20-13:35	14:20	15:20	18:35
全校級 公開授業	講演 上越教育大学 水落 芳明 様	全体 会	全体 会	公開授業 1年算数 4年理科 6年国語	協議会	講演 上越教育大学 西川 純 様	閉 会 式

Messages

<http://ijimino.shibata.ed.jp> E-mail master@ijimino.shibata.ed.jp